

日本工営株式会社
2021年12月10日

日本工営 米領サモアで蓄電池併設型陸上風力事業に参入 レノバと共同で SPC を設立

日本工営株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：新屋浩明、以下、日本工営）は、米領サモアでの蓄電池併設型の風力発電事業の実施に向け、再生可能エネルギーの開発・運営事業者である株式会社レノバ（本社：東京都中央区、代表取締役社長 CEO：木南陽介、以下、レノバ）と共同で米国デラウェア州に Pacific Rim Energy Inc.および米領サモアに Tutuila Wind Energy LLCを設立し、米領サモアの公機関である American Samoa Power Authority（以下、ASPA）との電力供給に関する契約を締結しました。

■プロジェクト概要と意義

米領サモアの主要島トウトウイラ島西部に陸上風力発電設備（42MW 相当）および蓄電池（40MWh 相当）を設置し、ASPA への売電を通して島内の系統に電力供給を行います。

米領サモアは発電量の 90%以上を島外から輸入した軽油による発電で賄っており、再生可能エネルギー活用への転換が急がれるとともに、輸入燃料の依存度が高く電力単価の高騰が課題となっています。本プロジェクトの発電量は領内電力需要のうち約 50%に達し、島内の主力電源は再生可能エネルギーに置き換わる計画です。米領サモアは 2016年9月公表のエネルギーアクションプランにおいて、2025年に再生可能エネルギー比率を50%、2040年に100%とする目標を掲げており、本プロジェクトはその目標達成の一翼を担う重要なプロジェクトとなります。

風力発電に蓄電池を併設することで、再生可能エネルギーの利用率を上げるとともに、課題である急激な出力変動への対応や離島系統における需給調整など、領内の電力供給の安定化にも貢献します。

また、本プロジェクトでの地産地消型の再生可能エネルギー導入に伴う燃料輸入の減少により、燃料費削減による電力単価の低下の実現、エネルギーの自給自足や持続可能性の確保、レジリエンス向上を図ります。

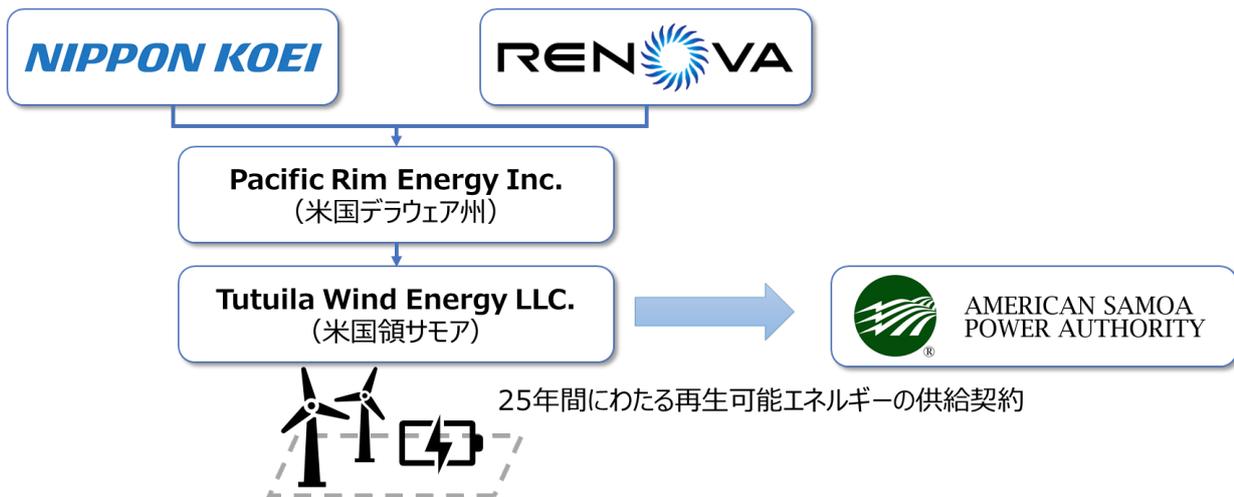
■各社の役割と今後の展開

本プロジェクトにおいて、日本工営は蓄電池とコントロールシステムの仕様選定、再生可能エネルギーを主力電源とする離島系統の制御・システム構成の検討を行い、レノバは風況解析と風車選定およびタービン設置に係る全体設計を行います。

本プロジェクトは、日本工営が再生可能エネルギー普及で先進する欧州で蓄積してきた蓄電池活用ノウハウを活かし、本格的な独立系発電事業者（IPP：Independent Power Producer）として事業へ参入する初の案件となります。この取り組みを通じて得られるノウハウを通じて、同様の課題を抱える地域への展開も目指します。

日本工営は、蓄電池制御、離島系統の安定化技術を通して、国内外における新規事業領域の開拓と拡大を加速し、カーボンニュートラルの実現および SDGs 目標 7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」の達成に貢献してまいります。

▼プロジェクト構成図



▼事業概要

名称 (仮)	American Samoa Hybrid Wind Project
事業主体	Tutuila Wind Energy LLC(*1)
建設地	米領サモア Tutuila 島
設備容量(計画値*2)	風力発電所：42MW 蓄電池：40MWh
事業期間	商業運転開始後 25 年間

*1: Pacific Rim Energy Inc.の出資比率は株式会社レノバ：50% 日本工営：50%、Tutuila Wind Energy LLC の出資比率は Pacific Rim Energy Inc.：100%です。

*2: 今後の技術的検討を踏まえ変更の可能性あります。

■株式会社レノバ概要

2000年設立。再生可能エネルギーのマルチ電源開発・運営に特化した日本で唯一の独立系発電事業の上場会社である。太陽光、バイオマス、洋上風力、陸上風力、地熱、水力など多様な再生可能エネルギー電源の開発、運営を手掛ける業界のリーディングカンパニー。

<https://www.renovainc.com/>

■American Samoa Power Authority (ASPA) 概要

米領サモアの総合インフラ公社。

主な事業である電力供給に加え、上下水、廃棄物処理などの事業も取り扱う。

<https://www.aspower.com/>